

SWCCグループ

2019年3月期 第3四半期
決算補足説明資料



Creating for the Future

昭和電線ホールディングス（株）
（東証1部：5805）

February 4, 2019

<http://www.swcc.co.jp/>



第3四半期総括

業績：第3四半期業績は好調に推移、3Q累計は前期比で増収・微減益

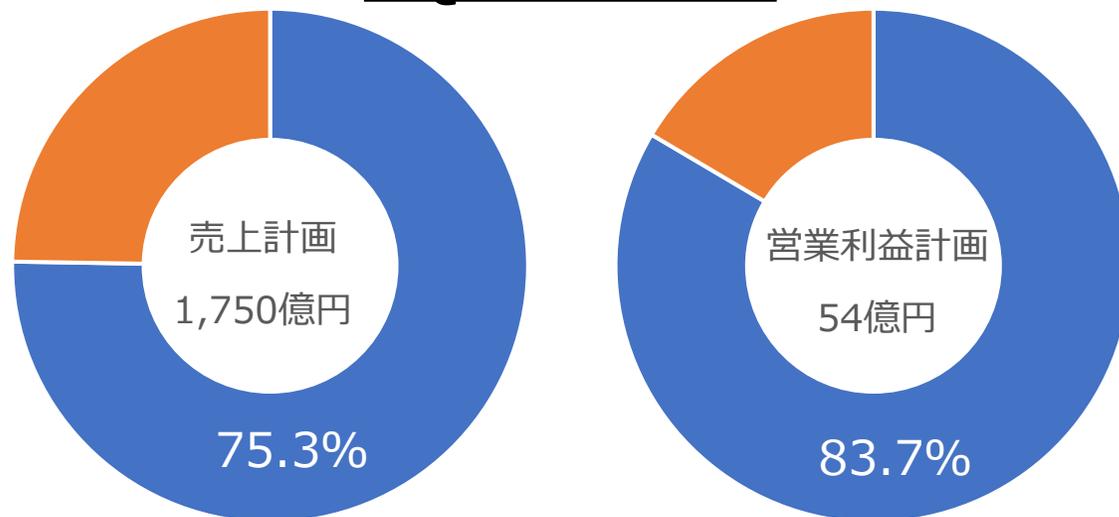
- ・ 建設・電販向け電線市場は価格競争が依然として厳しい状況であるが、2Q時点で一時的なコスト計上をした電力システム事業も堅調に推移。その他のインフラ関連需要も堅調で、コミュニケーション事業、デバイス事業が増収・増益となり全体業績に貢献。

通期計画に対する進捗率は、
売上高：75.3%、営業利益：83.7%

施策面：成長事業と新事業

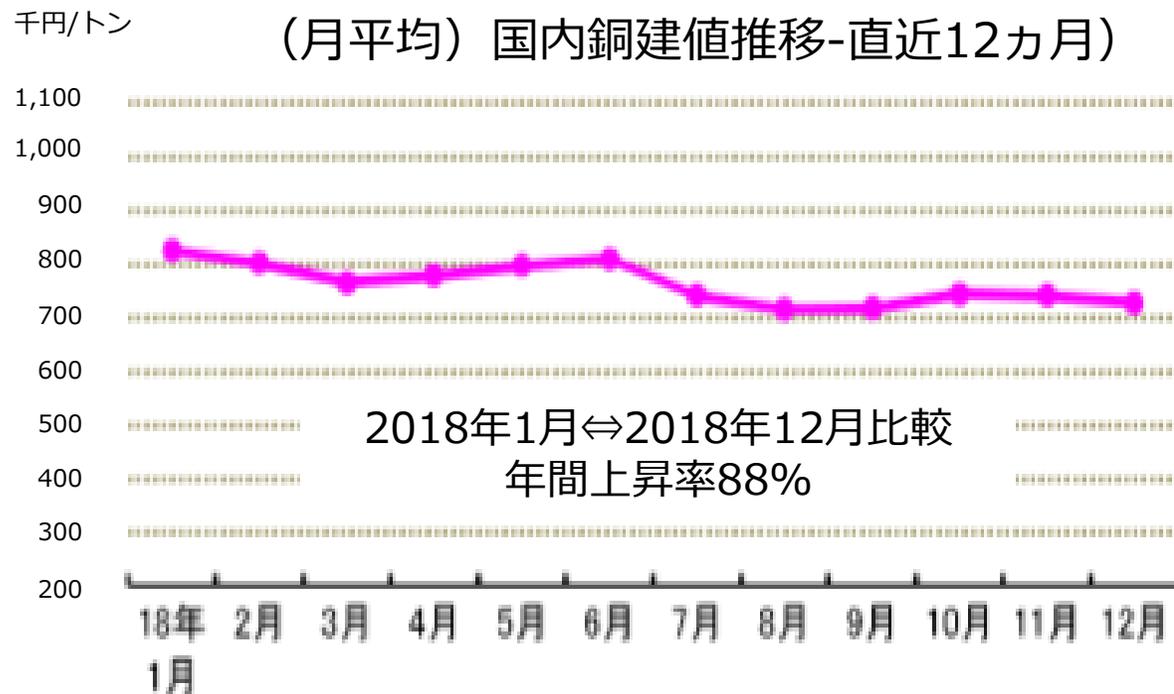
- ・ 外部環境の不透明感はあるものの、国内需要動向は堅調に推移。
- ・ 成長事業（電力関連）、新事業（自動車関連）にも手応え。

3Q累計進捗率

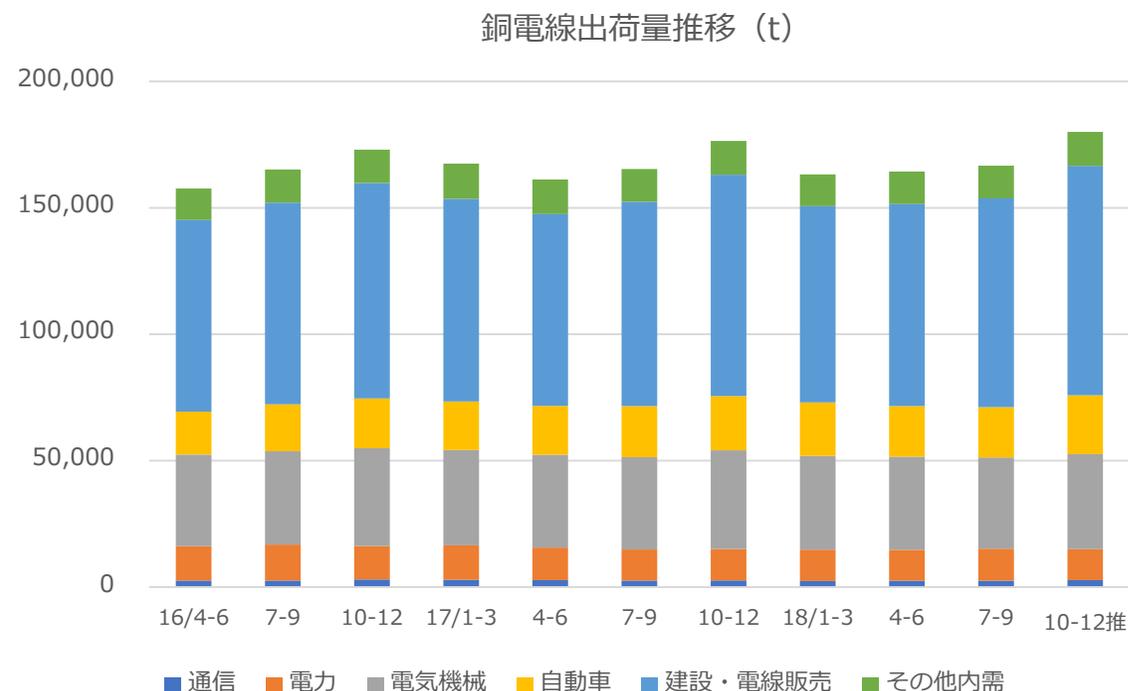


マクロ環境

- 国内銅価格（円ベース）は夏場以降、若干下落するも安定的に推移。
- 国内の銅電線出荷量も安定的に推移。



出所：(社団) 日本電線工業会データより



出所：(社団) 日本電線工業会データより

3Q 連結損益計算書（前年同期比）

- 3Q累計売上は前期比+2.6%、利益率は2Qの一時的なコストを原価計上したために微減となっているが、3Q期間内は前期並みを確保。

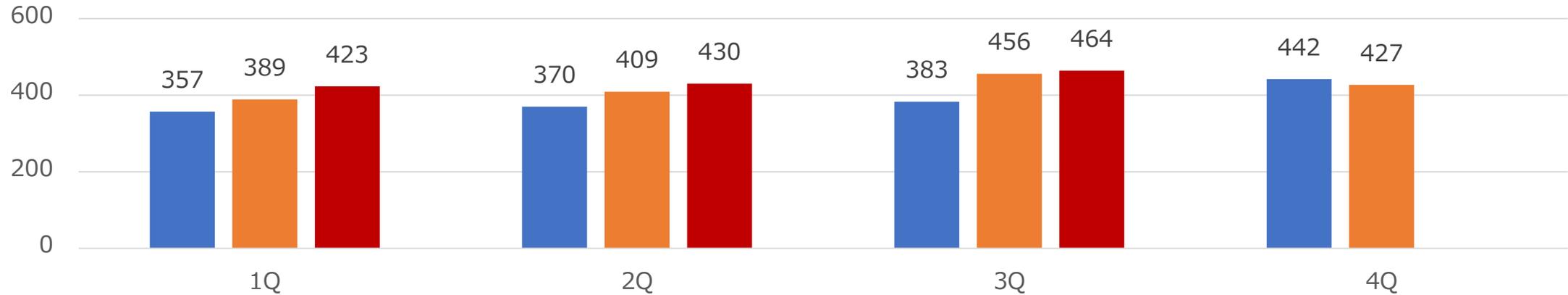
(単位：億円)	2017年度 3Q実績	構成 %	2018年度 3Q実績	構成 %	前年同期比 %
売上高	1,254	-	1,317	-	+5.1%
売上総利益	162	13.0%	158	12.0%	△2.5%
営業利益	47.2	3.8%	45.1	3.4%	△4.4%
経常利益	40.4	3.2%	38.8	2.9%	△4.1%
親会社株主に 帰属する 四半期純利益	27.0	2.2%	27.5	2.1%	+1.7%

四半期業績推移（売上高：過去3期比較）

(単位：億円)

四半期毎の売上高推移

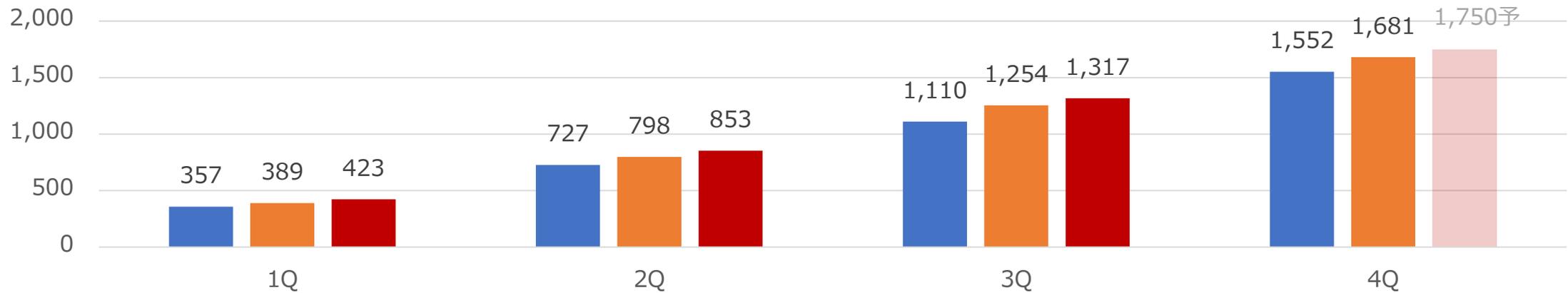
■ 2016年度 ■ 2017年度 ■ 2018年度



(単位：億円)

累計売上高推移

■ 2016年度 ■ 2017年度 ■ 2018年度



四半期業績推移（営業利益：過去3期比較）

(単位：億円)

四半期毎の営業利益推移

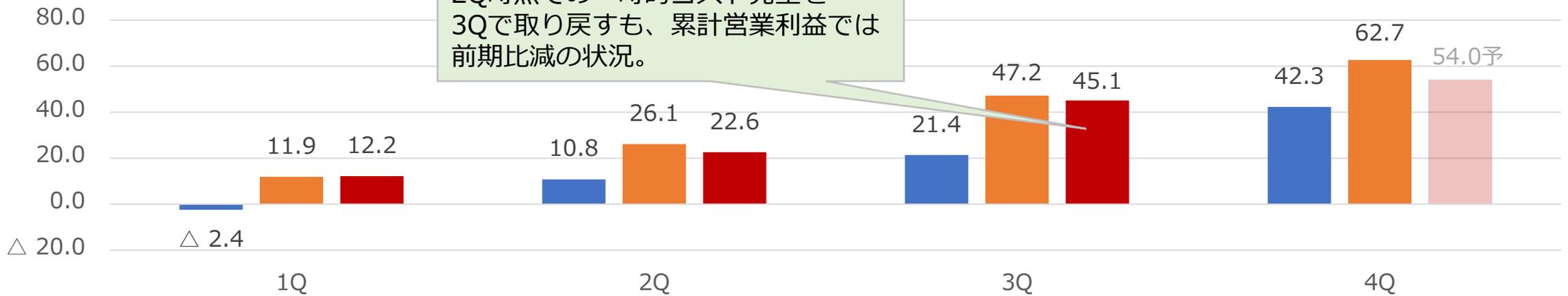
■ 2016年度 ■ 2017年度 ■ 2018年度



(単位：億円)

累計営業利益推移

■ 2016年度 ■ 2017年度 ■ 2018年度

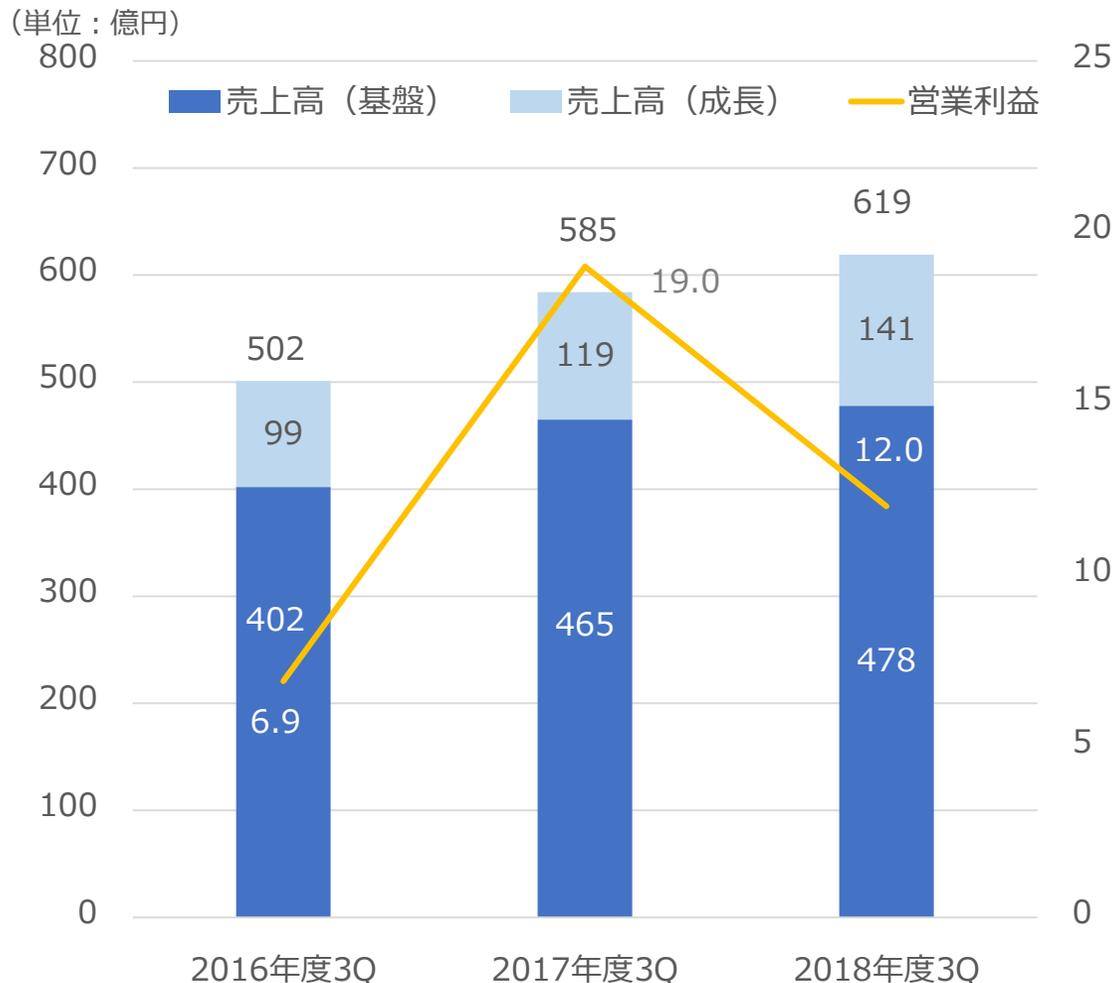


3Q セグメント情報（前年同期比）

- 電線線材事業は増収・減益。巻線事業は減収・減益。電力システム事業、コミュニケーションシステム・デバイス事業・その他は増収・増益となった。

(単位：億円)	2017年度 3Q実績		2018年度 3Q実績		増減	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
電線線材	585	19.0	619	12.0	+34	△7.0
電力システム	194	11.4	207	12.1	+13	+0.7
巻線	158	2.4	156	0.9	△2	△1.5
コミュニケーション システム	155	8.9	160	10.7	+5	+1.8
デバイス	150	8.5	161	12.0	+11	+3.5
その他	12	△3.0	14	△2.6	+2	+0.4
合 計	1,254	47.2	1,317	45.1	+63	△2.1

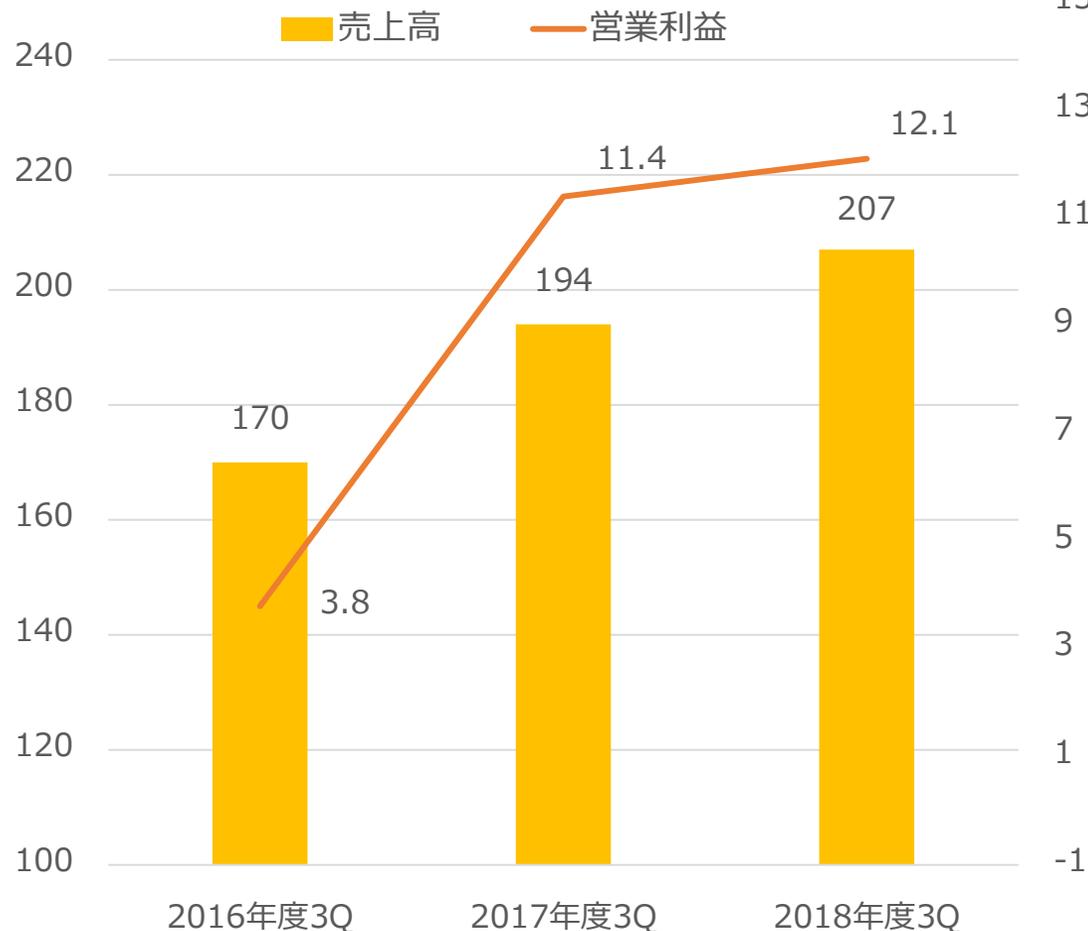
電線線材事業



- **特徴**：2つの主要事業領域がある。
 - ① **基盤領域**：建物・施設等やあらゆる汎用品に使われる電線・線材需要向け
 - ② **成長領域**：自動車等に使われる高品位・高機能線材（無酸素銅、銅銀合金等）
- 売上高は、成長領域が牽引し前期比34億円増の619億円となった。成長領域は増収・増益となるも、基盤領域の価格競争が依然厳しく営業利益では7億円減の12億円となった。
- ① **基盤領域**：建設向け需要は引き続き堅調であったが、営業利益は低下。
 - ② **成長領域**：成長分野である高機能線材は売上・利益ともに堅調に推移。
セグメント利益内で約50%の構成比を占める

電力システム事業

(単位：億円)



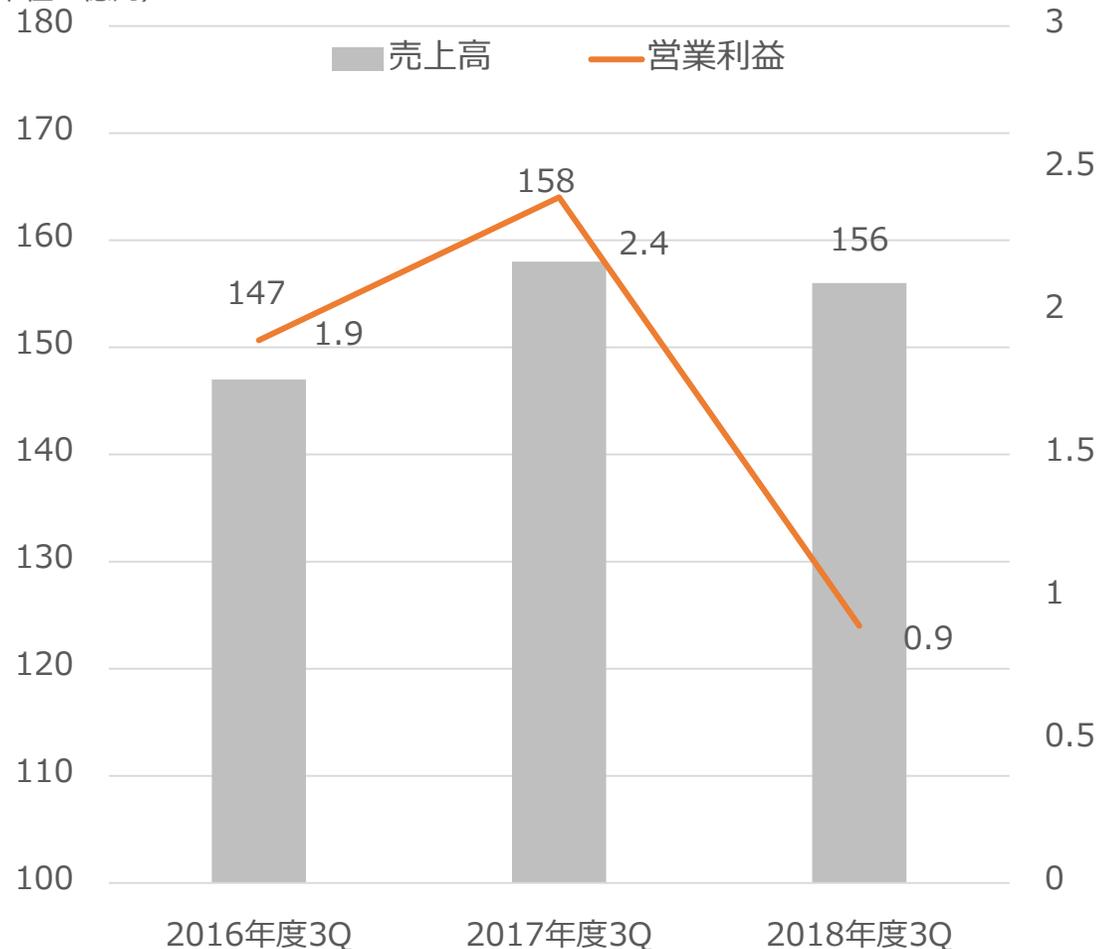
■ **特徴**：電力システム事業では、付加価値の高いケーブル接続部材を中心とした変電需要を取り込み、利益率向上へつなげてきている。現在、SICONEX®製品で培ったエポキシ技術を用いて耐震性・安全・環境にやさしく施工性に優れた製品を提供中。

■ 売上高は前期を上回り13億円増の207億円となった。2Q計上の海外改修工事で見込まれる追加費用を3Qでカバーし、営業利益は0.7億円増の12.1億円となった。

■ 電力会社向けの更新需要、民間事業会社向け更新需要は堅調に推移。

巻線事業

(単位：億円)

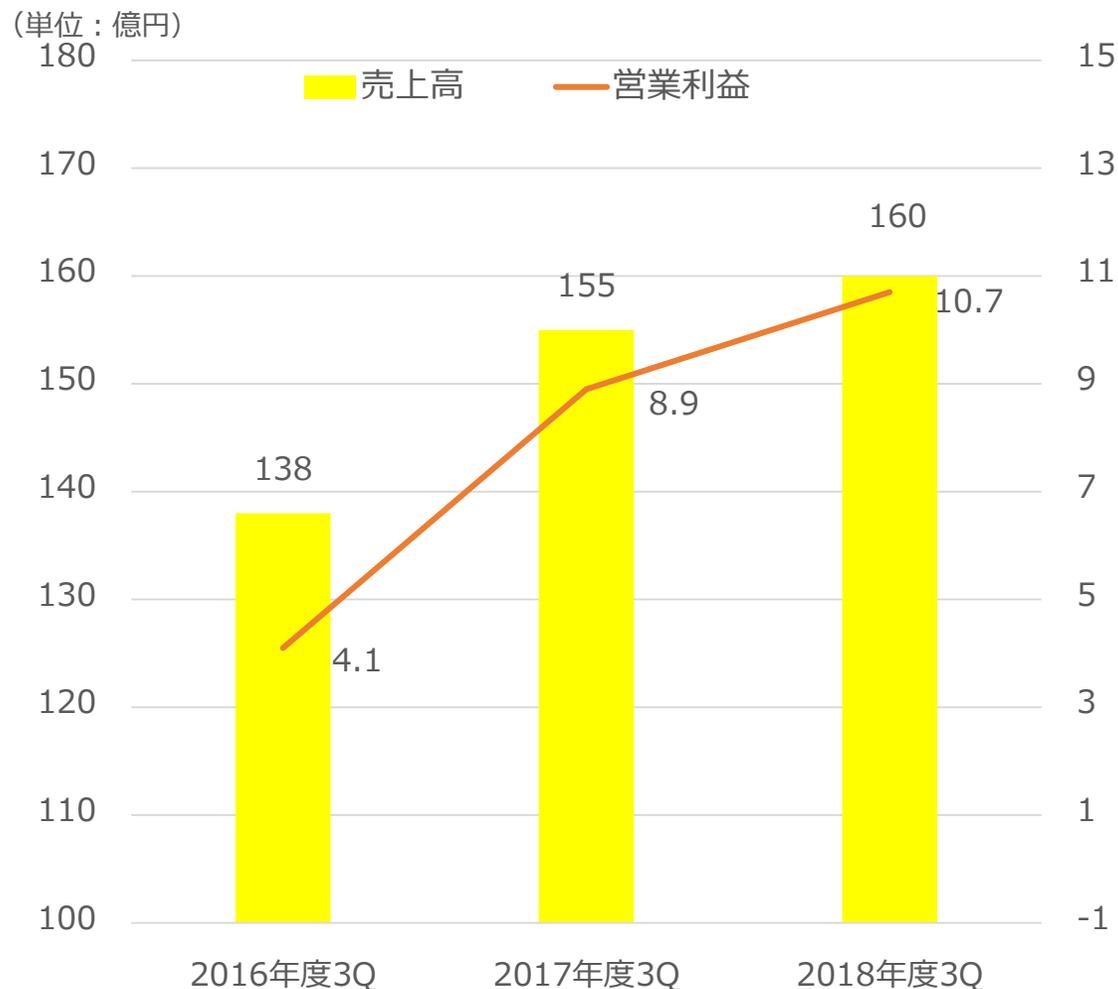


■ **特徴**：巻線事業は、あらゆる分野のモータ、コイルで使用されている。HEVやEV車に使用されるモータは高効率が要求されるため、高性能な平角エナメル線の量産を強化中。電子部品用に小型化、薄型化にむけた製品群を供給。

■ 売上高は数量減少と連結子会社が連結対象外になった影響で2億円減の156億円となった。営業利益は、2Qでは中国現地法人に対する債権について貸倒引当金計上による赤字であったが、3Qで黒字転換したものの、累計で1.5億円減の0.9億円となった。

■ 重電向けは需要低迷したが、自動車向け電装品等が堅調に推移。

コミュニケーションシステム事業



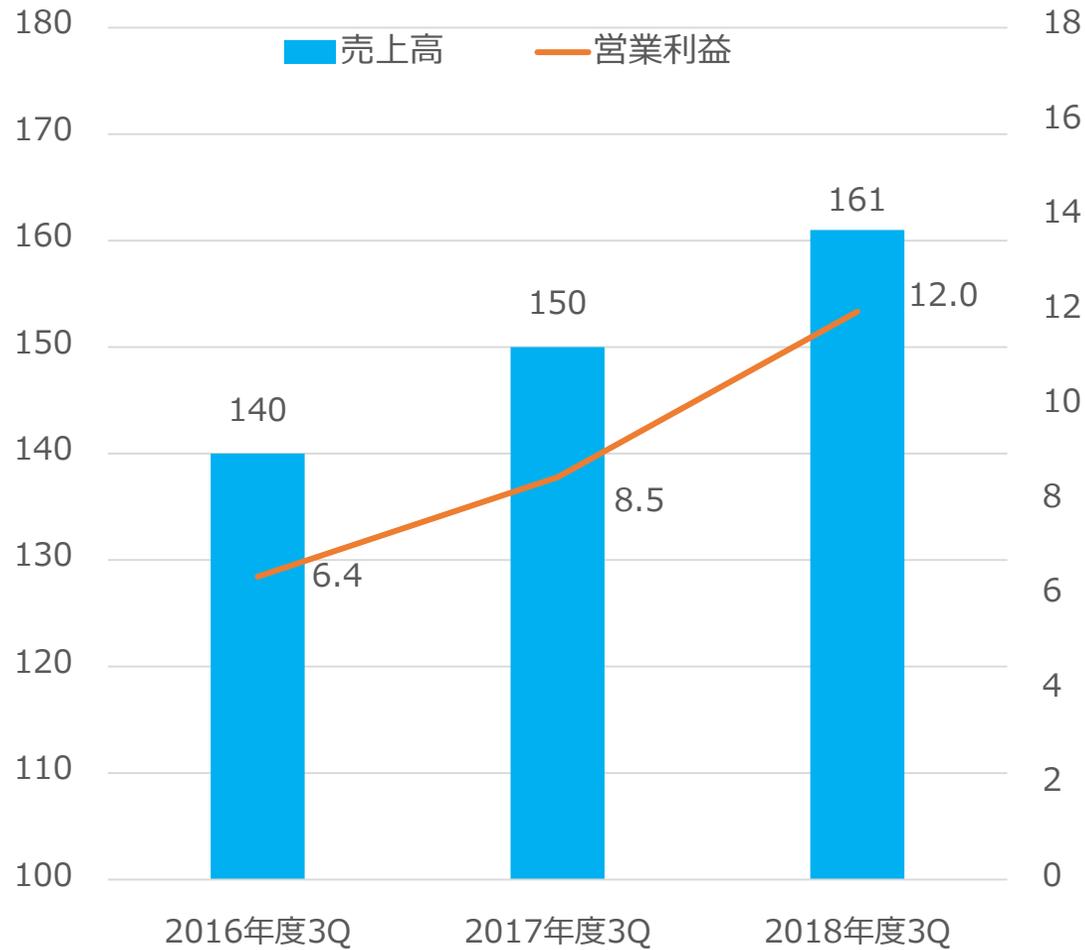
■ **特徴**：コミュニケーションシステム事業では情報通信用の光ファイバからメタルケーブル、電子ワイヤまで数多くの製品を取り扱っている。IoTの普及、FA化が急速に進められる中、産業オープンネットワークに対応した電子ワイヤ製品として、様々なケーブルの製造販売を実施。資本提携先である富通集団との協業による、中国市場での拡大を今後推進。

■ 売上高は、前期比5億円増の160億円となり、営業利益も1.8億円増の10.7億円となった。

■ 通信ケーブルの需要は微減するものの、高付加価値の付属品が増加。

デバイス事業

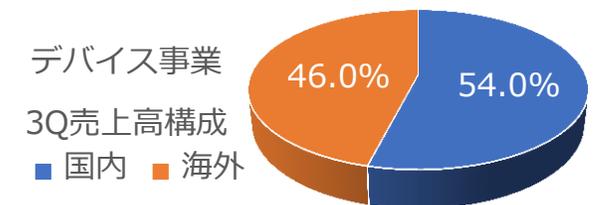
(単位：億円)



■ **特徴**：デバイス事業では、複写機用ローラやワイヤハーネスを製造・販売しており、特に発展する東南アジアでの需要が高く海外売上を押し上げている。免制震事業では、建築用免震部材を製造。豊富な製品のラインナップにより、国内2位のシェアを誇る。

■ 免制震事業が好調なことから、売上高は前期比11億円増の161億円、営業利益は3.5億円増の12億円となった。

■ 複写機用ローラ、ワイヤハーネスの海外需要は堅調。海外売上比率は、デバイス事業全体の46%を占める。



貸借対照表（前期末比較）

・自己資本比率は27.8%（前期末比1.2ポイントアップ）

単位：億円

		18/3/31※	18/12/31	増減			18/3/31※	18/12/31	増減
流動資産	現金・預金	47	40	△7	流動負債	支払手形・買掛金	219	211	△8
	受取手形・売掛金	397	437	+40		短期借入金	344	362	+18
	棚卸資産	219	228	+9		その他	136	142	+6
	その他	46	48	+2		流動負債 計	699	715	+16
流動資産 計		709	753	+44	固定負債	長期借入金	132	134	+2
固定資産	有形固定資産	396	392	△4		その他	69	66	△3
	無形固定資産	15	11	△4	固定負債 計	201	200	△1	
	投資その他の資産	115	120	+5	負債 合計	900	915	+15	
固定資産 計		526	523	△3	純資産	資本金	242	242	0
資産	合計	1,235	1,276	+41		資本剰余金	55	55	0
						利益剰余金	△35	△8	+27
						その他	73	72	△1
					純資産 合計	335	361	+26	
						負債・純資産 合計	1,235	1,276	+41

※会計制度変更により組替を行っています。

2019/3期 通期業績予想

- 7月31日開示の通期業績予想（上方修正）と変更なし

(単位：億円)	2017年度 実績	構成 %	2018年度 計画	構成 %	前期比 %
売上高	1,681	-	1,750	-	+4.1%
売上総利益	216.4	12.9%	-	-	-
営業利益	62.7	3.7%	54	3.1%	△14.0%
経常利益	48.9	2.9%	45	2.6%	△8.0%
親会社株主に 帰属する 当期純利益	37.3	2.2%	33	1.9%	△11.7%



Creating for the Future

昭和電線ホールディングス（株）
（東証1部：5805）

お問合せ先

昭和電線ホールディングス（株）
事業戦略本部経営企画部
TEL：044-223-0520
E-mail：kouho@hd.swcc.co.jp

本説明資料に記載されている将来の業績予測値は、公表時点で入手可能な情報に基づいており、潜在的なリスクや不確定要素を含んでおります。

このため、実際の業績は、さまざまな要素により、記載された予測値と大きく異なる結果となり得ることをご承知おき下さい。

実際の業績に影響を与える要素としては、経済情勢、需要動向、原材料価格・為替の変動などが含まれます。なお、業績等に影響を与える要素は、これらに限定されるものではありません。

<http://www.swcc.co.jp/>